

優生学運動とその遺産 —身体管理のポリテクス—



小野 直子（おの・なおこ氏）

富山大学学術研究部人文科学系教授

専門：アメリカ史・医学史

同志社大学文学研究科博士課程修了、博士（文化史学）

主要著作：『医療化するアメリカ身体管理の20世紀—』（共編著、彩流社、2017年）、『「マニュアル」の社会史—身体・環境・技術—』（共著、人文書院、2014年）、『身体と環境をめぐる世界史—生政治からみた「幸せ」になるためのせめぎ合いとその技法—』（共著、人文書院、2021年）など多数。

優生学は、社会的に望ましいと思われる人々を増加させ、「不適者」とされる人々を根絶して人類を改善する「科学」として、20世紀初頭に世界各国の知識階級に急速に受け入れられた。「不適者」を根絶するための優生政策として実施された断種（不妊化）手術を事例として、誰が誰の身体を、どのような根拠に基づいて、どのように管理してきたのか、そこに「科学的」知がどのように関与してきたのか、その結果どのようなことが起こったのかを、歴史的に考察したい。

2021年7月12日（月） 16:40-18:10

使用言語：日本語 (Japanese)

オンライン開催 (Zoom)

要・事前参加登録 (下記URLかQRコードから登録して下さい)

登録期間：~7月8日(木)まで

登録用URL：<https://forms.office.com/r/VRf6H069uw>

